

今できること
プロジェクト

2026-2027

学び直しと伝承

教訓の担い手たちから多くを学び 命を守る防災・減災の知恵を。

2026年度
プロジェクト
始動します

東日本大震災の発災から16年目を迎えた2026年度は、被災地に寄り添って伴走するプロジェクトの原点はそのままに、より学びを深める機会の創出に努めます。

東日本大震災で甚大な被害を受けた宮城で暮らす私たちは、記憶が薄れつつある震災と復興の過程を改めて学び直し、身近で起こり得る災害に対する心構えが必要です。そのために、いつ起こるのか分からない災害への備えを知るプログラムにも一層、力を入れて取り組みます。

1

賛同企業限定プログラム

3.11メモリアルネットワーク×今できることプロジェクト

3.11から未来を考える 合同震災研修



震災への理解を深め 命を守るための得難い学びの機会を

長い年月が経過し、震災を経験していない若い世代や、震災後に宮城県へ転勤・就職した人々が増えています。一方で、宮城県で事業を営む企業にとって、震災の経験や地域が歩んできた復興の過程を理解することは、地域社会との関わりを深めるうえで重要な視点となります。本プロジェクトの賛同企業に参加者を募り、東日本大震災の被災体験や復興の歩みを学ぶだけでなく、「なぜ震災を伝え続けるのか」「私たちは経験をどのように未来へつないでいくのか」をテーマに、各々の考えを深める研修会を開催します。

語り部による実体験の講話と、震災伝承・防災教育の第一線で活動する講師による講話を通じて、地域への理解を深めるとともに、災害と向き合う姿勢や社会人としての視野を広げる内容を目指します。

講師

語り部講話

じん 阿部 任さん

3.11メモリアルネットワーク職員

震災当時は石巻市の高校1年生。自宅で津波に被災し、祖母とともに家ごと流されながらも9日後に救出されました。震災体験や、その後に抱えた葛藤を語りながら、「生き残った経験を伝える意味」について発信を続けています。

震災に向き合う
ということ

武田 真一さん

3.11メモリアルネットワーク代表理事

東日本大震災時に河北新報社報道部長。編集局次長、論説副委員長を経て「防災・教育室」室長。震災伝承と防災啓発のプロジェクトに取り組みしました。2019年定年退社と同時に宮城教育大学特任教授(25年まで)。教職員対象の被災地視察研修などを企画運営。東北大学災害科学国際研究所学術研究員

【研修会実施】

2026年10月8日

公益社団法人
3.11メモリアルネットワーク
命をつなぐ 未来を拓く
https://311mn.org/

2

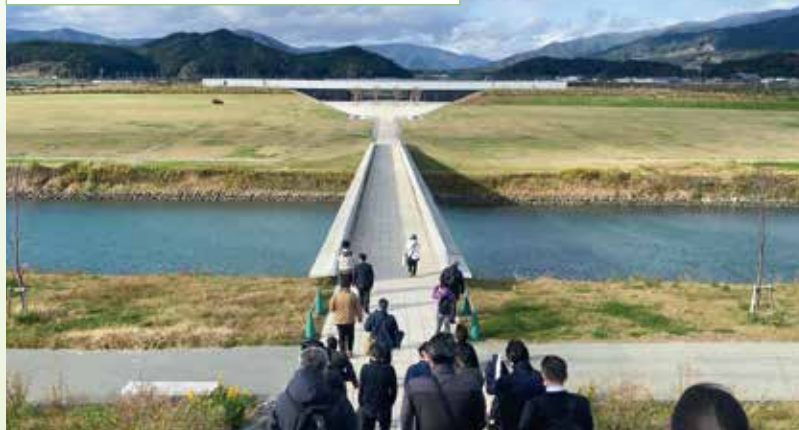
賛同企業・一般参加型プログラム

3.11メモリアルネットワーク×今できることプロジェクト

被災地視察ツアー

(公社)3.11メモリアルネットワークのスタッフがガイドとして同行し、ご案内するツアーを実施します。

被災地視察① 岩手県陸前高田市



「震災の記憶と暮らしの再建を学ぶツアー」

岩手県陸前高田市では、被災後の暮らしや生活再建の過程について理解を深めます。また、被災地を「災害の現場」としてだけではなく、人々が地域コミュニティを再生してきた地域として捉え、自らの地域や組織に置き換えながら、防災や支え合いについて考える機会にします。

【ツアー実施】2026年11月20日

被災地視察② セツ浜町



「若い世代と共に考える震災伝承ツアー」

若き語り部として活動に取り組む宮城県多賀城高校災害科学科の高校生たちや、セツ浜町の語り部活動・継承活動の現場を訪問。災害伝承を「受け取る側」だけでなく「担い手」の視点から捉え、地域に根ざした防災・減災のあり方について理解を深めます。

【ツアー実施】2027年1月29日

3

賛同企業・一般参加型プログラム

仙台市 減災推進課×今できることプロジェクト

都市型災害に備えるスキルを磨く 防災・減災ワークショップ

(協力/仙台市危機管理局 防災・減災部 減災推進課)



仙台市防災・減災アドバイザーと一緒に 非常事態への備えを学ぶ

仙台市の都市部は生活利便性が高い反面、人口が密集するがゆえ、巨大地震や内水氾濫の発生時に災害リスクが高まる傾向にあります。物流とインフラが広範囲で途絶した東日本大震災では、仙台の都市機能がまひ。多くの市民が長期にわたって不自由を強いられました。

今年度も、仙台市危機管理局減災推進課のご協力のもと、災害リスクへの理解を深め、大規模な自然災害の発生時に推奨される在宅避難や帰宅困難とならないための備えなどの自助・共助を学ぶ実践型ワークショップを2回実施します。

講師

早坂 政人さん

仙台市
防災・減災アドバイザー



2003年5月の宮城県沖を震源とする地震を契機に、仙台市消防局は大地震に備え、市民への普及啓発を専門とする地震災害対策強化担当(通称)仙台市地震防災アドバイザーを設けました。その後、東日本大震災や関東・東北豪雨の経験から多くの教訓を得て、より幅広い災害への備えを伝えるため、18年4月より「仙台市防災・減災アドバイザー」を配置しています。



仙台市消防局マスコットキャラクター
防災まさむね君
(協力:伊達家伯(はく)記念会)

【ワークショップ実施】

第1回:2026年12月17日/第2回:2027年2月9日

河北新報社が考える被災地支援プロジェクトは、地域の可能性を発信し、記憶を継承する取り組みへ。

東日本大震災からの復興を後押しするため、「今、私たちにできることは何だろうか?」という真摯な問いかけから、2012年に活動がスタートしたこのプロジェクト。被災地訪問ツアーや情報発信支援、参加者が現地での汗を流すボランティア活動など、年度ごとに企画や内容の拡充を図り、アクションの幅を広げてきました。さまざまな派生プロジェクトにも取り組みながら、この活動は新たな可能性を模索し続けます。

企画・制作



河北新報社

営業局(今できることプロジェクト事務局)

私たち賛同企業も、被災地再生と伝承のために「今できること」をともに考え、このプロジェクトに賛同し、推進していきます。

IHI/アサヒビール 東北支社/花王/キューアンドエー/キリンビール 東北第1支社/ケーズデンキグループ・デンコードー/光輝ビルテクノス/神戸製鋼所東北支店/こくみん共済 coop 宮城推進本部
サントリー 東北営業本部/JFEスチール仙台製造所/JTB 仙台支店/住友不動産 東北事業所/生命保険協会 宮城県協会/仙台環境開発/大和証券 仙台支店/DAIWA/DICグラフィックス
伝承千年の宿 佐勘/東急リパブル/東伸環境/日本製紙/日本製紙クレシア/日本損害保険協会/ネクステージ/野村不動産 仙台支店/東日本油化工業/富士フイルムグラフィックソリューションズ
三井住友海上/三井不動産/三菱地所グループ/三菱重工機械システム/宮城県建設業協会/宮城県自動車整備振興会/宮城交通/みやぎ生協/明治安田生命 仙台支社/リコージャパン 宮城支社
Rethink PROJECT(順不同)

これまでの活動内容や新着情報は「今できることプロジェクト」特設HPをご覧ください。

www.kahoku.co.jp/imadeki/

河北 今できること 検索



facebookページもあります。

【お問い合わせ】今できることプロジェクト事務局(河北新報社営業部) tel 022-211-1318